

(平成19年10月15日発行) 福島県文化財センター白河館 〒 961-0835 白河市白坂一里段 86 TEL 0248-21-0700代 FAX 0248-21-1075 URL http://www.mahoron.fks.ed.jp



実技講座「古代の染色にちょうせん」

写真は、実技講座「古代の染色にちょうせん」の参加者の皆さんと奈良時代の家の前で記念撮影したものです。周りにある植物はタデアイといい、一般的に日本で行われてきた藍染めの原料となるものです。今回の講座では、このタデアイの葉を使って絹のスカーフを浅葱色(黄色みがかった青色)に染め上げました。参加者の皆さんには、自分で摘み取ってきたタデアイの葉を水の中で揉みこんでもらい、少しねばりがでてきた緑色の液体にそれぞれのスカーフを浸してもらいました。皆さんの作品は輪ゴムで絞って模様をつけたり、浸し時間を変えて濃淡をつけたりと、どれも素敵に仕上がりました。

今回の染色方法は"藍の生葉染め"で、タデアイの花が咲き始める直前の7~8月限定の染め方です。平安時代の『延喜式』という記録には、特にタデアイのみで染めたものを「縹色」と呼んでおり、この方法は当時から絹の布を染色する方法として広く普及していたものだったようです。平安時代の色を再現することは難しいですが、今回の講座で染め上げられた色は、当時の縹色と呼ばれたものと言えるのかもしれません。

史跡見学ツアー

9月15日に史跡見学ツアーを実施しました。今回は 郡山市・本宮市・大玉村の代表的な古墳を巡る体力 勝負のツアーです。

晴天の下、総勢19名を乗せたバスは、まほろんを 出発し、東北自動車道を経由して最初の目的地、郡 山市の大安場古墳へ向かいました。

大安場古墳(前方後方墳)は国史跡に指定され、 現在史跡整備中ですので、古墳のすぐ近くまで行く ことができませんでしたが、当時の人と同じように 古墳を仰ぎ見て一応納得。

次は、蒲倉古墳群(円墳)を見学しました。郡山市立美術館の駐車場から山道を登ると、南向き斜面の木立の中に小さな円形の高まりがたくさんあるのが見えます。蒸し暑く、ちょっと汗が流れましたが、約30基の古墳を見学して回りました。

蒲倉古墳群を出発する頃はもうお昼。戦国時代の



<大安場古墳をのぞむ>

「ネットでまほろん」試行

「ネットでまほろん」は、FKS (ふくしま教育総合ネットワーク)のビデオ会議システムを使って行う授業支援です。内容は、火おこしなどの体験学習支援や学校周辺の地域の歴史解説など様々です。

今年度の「ネットでまほろん」募集校数は2校で、第1回目の授業は9月20日に福島県立須賀川養護学校医大分校とまほろん間で行われました。授業の内容は「縄文時代のお話」と「火おこしの歴史と実演」です。第1回目ということもあり、まほろんの担当職員も画面の向こうでお話を聞いてくれている生徒の皆さんに上手に画像が送れるか、分かりやすく色々なお話が出来るか不安でしたが、授業終了後の感想を聞いてみると「昔の火おこしは大変だと思いました。」「楽しかった。色々な道具を発明した縄文時代の人々はすごいと思う。」など、参加していただいた生徒の皆さんには大変好評でした。

また、担当の先生もまほろんから貸し出した「火



<天王壇古墳で記念撮影>

木村館跡の一部が調査された郡山東インターを経由 して大玉村あだたらふるさとホールへ移動。昼食後、 館長さんと村教育委員会の戸田さんに館内を案内し ていただき、村内の古墳から出土した埴輪に直に触 れたり、昔の生活や遊びを体験しました。

午後の古墳巡りは、大玉村の三子塚古墳(前方後円墳)から開始です。二子塚古墳から本宮市庚申壇古墳にかけては、約1kmの間に古墳が分布し七ツ坦古墳群と呼ばれています。両古墳の他、現存するのは天王壇古墳(円墳)と金山古墳(円墳)ですが、これらを巡るには道が狭く、歩いて移動しました。天王壇古墳の手前ではヤマカガシのお出迎えを受け、ちょっと緊張の一瞬もありましたが、ようやく庚申壇古墳に到着。庚申壇古墳では、発掘調査中の福島大学菊地芳朗先生から古墳の概要や調査の目的について説明していただきました。古墳の表面の葺石や出土したばかりの埴輪に一同感激!!

次回のツアーも多くの方々の参加をお待ちしてい ます。



<カメラに向かって説明する職員>

おこし体験セット」で実際に火をおこすこともでき、 まほろんの担当職員も一安心の第1回「ネットでま ほろん」でした。

「ネットでまほろん」については、さらに数校が利 用いただけるよう、来年度募集校数を増やす予定で す。是非、ご利用ください。

まほろんイベント案内

「古代の鉄づくり」製鉄炉操業

日時:11月2日金~4日(日)場所:まほろん体験広場南側

今年は、何と 48 時間連続の製鉄炉操業を行い、ズク (炭素分の高い銑鉄) の産出を目指します。たたら (踏みふいご) を使い平安時代の製法で砂鉄から 鉄を作り出しているのは、日本で唯一まほろんのみです。

夜の仮眠場所も提供いたしますし、イベント期間 中は、駐車場も開放しています。皆様のご参加をお 待ちしています。飛び入りも大歓迎です!



シリーズ復元展示

いわき市中田横穴出土馬具の復元2

前回、現在まほろんで復元しているいわき市中田 横穴出土の鐙の形状について、他とは異なり、鐙先 端が三角形で、さらにつま先側が上がるという話を しました。今回は、さらに、この鐙の特徴について 述べたいと思います。

中田横穴出土の鐙金具を検討した際、最も大変な作業になると判断したのは、木質部と鉄地金銅張りの金具を止める鋲でした。鋲は鉄製で、頭が半球状で、鋲頭の下から針が延びている普通の形のものですが、中田横穴の場合、その数が問題でした。片側の鐙で700個、両側で計1,400個もの鋲が必要であることがわかりました。当時の普通の鐙では片側70個(群馬県綿貫観音山古墳出土鐙など)ほどが一般的ですから、異常な数です。

さらに、その鋲の大きさは、頭が直径8mm、高さ4mm、針が長さ6mmという、非常に小さなものだっ



たのです。ちなみに、今ある事務用品の真鍮製の平鋲は、頭の直径10mm、高さ1mm、針7mmですから、いかに小さなものであるかがわかると思います。

さらに、この鋲の頭は、全て金メッキされています。すなわち、鉄の鋲



「餅つき大会」と「ボランティアイベント」

日時:12月9日(日)

場所:まほろん体験広場他

餅つき大会では、竪杵と横杵を使って、合計5回の餅をつき、ついたお餅はきな粉餅とあんこ餅にして、汁物と一緒に参加者のみなさんにふるまう予定です。

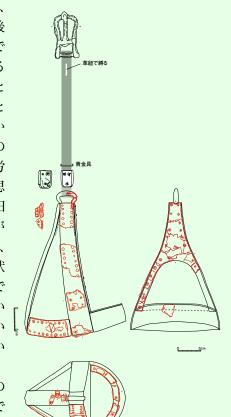
また、同じ日、ボランティアイベントを開催します。昔ばなし、土器づくり、合同オリエンテーリング、昔のあそび、アンギン編み等を行う予定です。

是非、ご家族でのご参加をお 待ちしております。



頭1個ずつに、 銅板を貼った後 アマルガム法で メッキしている のです。なんと 手の込んだこと をしているのか と、古墳時代の 工人たちの苦労 に頭が下がる思 いでした。中田 横穴の被葬者が 使用した鐙は、 その特異な形状 の他、鋲の数で も尋常ではない 特徴を持ってい たことが判明い たしました。

現在、鉄製の 鋲を製作中で す。この後、鋲 頭をメッキし て、金具を製作



<中田横穴出土金銅製壺鐙設計図>

し、組み合わせます。来春には金銅装三角錐形壺鐙 が完成します。

研修だより

無形の文化財研修 I 「民俗芸能を後世に伝えるために~念仏踊を通して考える~」

去る8月5日に県文化財保護審議会委員の懸田弘訓先生を講師に迎えて、標記の研修を行いました。今回の試みは、これまで各地の民俗芸能関係の方と接してきた中で「後継者不足による存続の危機」という悩みを幾度となく聞かされてきました。そば、という悩みを残度となく聞かされてきました。そば、関係者が一堂による存続のではなく、関係者が一堂によるが一堂によるで、関係を対している。のではない、関係を対している。といるではないのではなり、関係を対している。ときないではないのではないでは、関係を対している。と考えました。一世のは、大田川梅若歌念仏踊、保存会」、泉崎村から「峠節(太田川梅若歌念仏踊)保存会」、泉崎村から「峠節(太田川梅若歌念仏踊)保存会がの民俗芸能保存会ほか、文化財行政担当者や民俗芸能の研究者、一般の方など様々の立場の方々が受講しました。先生の講義の後、各保存会の代表者から、もれぞれが抱える問題点を発表していただき、自由討論に入りました。

現在民俗芸能自体が存続の危機にさらされている こともあり、話し合いに参加しているどの顔も真剣

シリーズ収蔵品紹介5

^{うえほんまち} 上本町 F 遺跡のかわらけ

1枚~、2枚~、全部で25枚~。今回、紹介するのは、富岡町の上本町F遺跡から見つかった、25枚の「かわらけ」という素焼きの土器です。

かわらけは中世によく使われた土器です。上本町 F遺跡のかわらけも、作り方の特徴から、中世の終 り頃、16世紀後半の資料と考えられます。この25 枚ものかわらけが、長さ約1mの長方形に掘られた 穴に埋められていました。大量のかわらけが一箇所 からまとまって見つかる場合、武家の儀式や宴会な どで、使い捨ての容器として使用されたものと考え られています。

また、出土したかわらけには、縁の部分に煤や油煙とみられる黒い付着物が認められるものが7枚ありました。おそらく、灯明皿として使われていた痕跡でしょう。さらに細かく観察すると、大きさの異なる二枚の皿で、黒い付着物の範囲が同じようなものがありました。油漏れを受けるために、二枚重ね

まほろんからのお知らせ

年末年始の休館日について

今年は、12月28日(金)~1月4日(金)まで が休館日となっています。

年が明けると、双六大会などの楽しいイベントがあります。皆様のご参加をお待ちしています。



そのものでした。民俗芸能が抱える諸問題を解決するために、保存会から一般の方々まで広く一堂に集まり意見交換をするような研修は、これまでなかったと思います。研修終了後には多くの方々から「今日は本当に良かった。ぜひ来年もこのような企画を持ってほしい」との意見が寄せられました。

今回の研修が、少しでも民俗芸能の継承に役立っていただけることを願っています。次年度もこのような趣旨の研修を行いたいと考えています。



<上:かわらけの出土状況 下:二枚重ねの灯明皿> て使用したものと思われます。

上本町F遺跡にいた人たちは、かわらけに油を入れてあかりを灯し、また別なかわらけにお酒を注いで宴会をしていたのかもしれませんね。

ご利用案内

開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、 ただし夏休み期間中は開館)国民の祝日の翌日 (土曜日・日曜日にあたる場合は開館)、年末年始

入 館 料 無料 (体験学習によっては、材料費が必要な 場合もあります。)

そ **の 他** 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予 約ください。